

令和 5 年度
(2023 年度)

事業報告書

(令和 5 年 4 月 1 日より令和 6 年 3 月 31 日)

学校法人 長聖

目 次

ページ

I. 法人の概要

1. 基本情報	1
2. 法人の沿革	1
3. 設置している学校・学科等	3
4. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の状況	3
5. 収容定員充足率	3
6. 役員の概要	3
7. 評議員の概要	4
8. 教職員の概要	4

II. 事業の概要

1. 法人全体	5
2. 理事会及び評議員会の開催状況	7
3. 長野女子短期大学	8
4. 長野女子高等学校	21
5. 佐久長聖高等学校・佐久長聖中学校	24

III. 財務の概要

1. 決算の概要	27
2. 資金収支計算書	28
3. 活動区分資金収支計算書	29
4. 事業活動収支計算書	29
5. 貸借対照表の状況	30
6. 中・長期計画の策定	31

I 法人の概要

1. 基本情報

(法人の名称) 学校法人長聖 (令和 5 年 4 月 1 日合併認可)
(主たる事務所の住所) 長野県佐久市岩村田 951 番地

2. 法人の沿革

(1) 学校法人の沿革

【学校法人長聖】 旧 (学校法人聖啓学園)

年 月	概 要
昭和 42 年 3 月	学校法人小諸学園設置認可
昭和 42 年 4 月	しらかば幼稚園開設
昭和 58 年 4 月	上田北幼稚園開設
平成 12 年 2 月	法人名を学校法人小諸学園→学校法人聖啓学園に名称変更
平成 15 年 4 月	臼田幼稚園を開設
平成 16 年 4 月	学校法人佐久学園より佐久長聖高等学校(昭和 39 年 4 月開設)及び佐久長聖中学校(平成 6 年 4 月開設)を設置者移管
平成 17 年 4 月	臼田幼稚園を佐久南幼稚園に名称変更
平成 29 年 3 月	学校法人信学会へしらかば幼稚園、上田北幼稚園、佐久南幼稚園を設置者移管
令和 5 年 4 月	学校法人長野家政学園との合併に伴い、長野女子短期大学(昭和 42 年 4 月開学)、長野女子高等学校(昭和 32 年 4 月開学)を継承し、法人名を学校法人長聖へ改称
令和 5 年 4 月	長野女子短期大学生活科学科食物栄養専攻を食物栄養学科に名称変更 食物栄養学科定員変更届出(令和 6 年度より入学定員 55 名→50 名)
令和 5 年 6 月	長野女子高等学校 令和 6 年度生より生徒募集停止
令和 6 年 4 月	長野女子短期大学を長野短期大学に名称変更し男女共学とする 長野短期大学幼児教育学科開設(入学定員 50 名) サミットアカデミーセカンダリースクール長野(入学定員 80 名)開校 サミットアカデミーエレメンタリースクール長野(入学定員 60 名)開校 サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久(入学定員 30 名)開校

旧（学校法人長野家政学園）

年 月	概 要
昭和 32 年 2 月	学校法人家政学園設置認可（長野県知事認可）
昭和 32 年 2 月	長野女子高等学校設置認可
昭和 32 年 4 月	長野女子高等学校開設（1 学年定員 150 名）
昭和 33 年 4 月	長野女子高等学校学則変更（1 学年定員 350 名）
昭和 42 年 1 月	法人名を長野家政学園に改名し、長野女子短期大学家政科設置認可（文部大臣認可）
昭和 42 年 4 月	長野女子短期大学家政科開設（入学定員 100 名）
昭和 49 年 4 月	長野女子短期大学家政科を家政学科に名称変更し、家政専攻、被服専攻に専攻分離
昭和 51 年 4 月	長野女子短期大学の収容定員変更認可（入学定員 100 名→150 名）
平成元年 4 月	長野女子短期大学家政学科を生活科学科に名称変更
平成 9 年 4 月	同上 生活科学科を生活科学専攻（入学定員 105 名）と食物栄養専攻（入学定員 45 名）に専攻分離
平成 15 年 4 月	同上 生活科学科生活科学専攻の入学定員を 40 名減じ 65 名とし、生活福祉専攻（入学定員 40 名）に分離
平成 18 年 3 月	同上 保育士養成施設として厚生労働大臣より認可
平成 18 年 4 月	同上 生活科学科生活科学専攻（入学定員を 65 名）を募集停止とし、児童福祉専攻（入学定員 40 名）を設置
平成 21 年 6 月	同上 収容定員変更届出（入学定員 125 名→100 名）
平成 22 年 4 月	同上 収容定員変更届出（入学定員 100 名）、食物栄養専攻（入学定員 45 名）、児童福祉専攻（入学定員 40 名→25 名）、生活福祉専攻（入学定員 40 名→30 名）
平成 22 年 12 月	同上 収容定員変更届出（入学定員 100 名→75 名）、児童福祉専攻（入学定員 25 名）を募集停止とする
平成 23 年 4 月	長野女子高等学校学則変更（入学定員 350 名→160 名）
平成 29 年 9 月	長野女子短期大学収容定員変更届出（定員振替）、生活福祉専攻（入学定員 30 名→20 名）、食物栄養専攻（入学定員 45 名→55 名）
令和 2 年 4 月	同上 収容定員変更届出（入学定員 75 名→55 名）、生活福祉専攻（入学定員 20 名）を募集停止とする
令和 4 年 11 月	長野女子短期大学学科名称の変更について届出（令和 5 年 4 月より生活科学科食物栄養専攻を食物栄養学科に名称変更）
令和 5 年 3 月	令和 5 年 4 月 1 日付 学校法人聖啓学園との法人合併により学校法人長野家政学園を解散 合併後の法人名を学校法人長聖に改称

【学校法人佐久学園】

年 月	概 要
昭和 39 年 3 月	学校法人佐久学園設置認可
昭和 39 年 4 月	佐久高等学校（全日制普通科）開設（学則定員 1 学年 360 名）
昭和 63 年 4 月	信州短期大学経営学科開設（1 学年定員 100 名）
平成 7 年 4 月	佐久高等学校を佐久長聖高等学校に校名変更
平成 7 年 4 月	佐久長聖中学校開設（1 学年定員 80 名）
平成 16 年 4 月	学校法人聖啓学園へ佐久長聖高等学校・佐久長聖中学校を設置者移管

3. 設置している学校・学科等

- （１）長野女子短期大学 食物栄養学科
- （２）長野女子高等学校 全日制
- （３）佐久長聖高等学校 全日制普通科
- （４）佐久長聖中学校

4. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の状況（令和 5 年 5 月 1 日現在）

学校名	学科名	入学定員数	収容定員数	入学者数	在籍者数
長野女子短期大学	食物栄養学科	55	110	54	102
長野女子高等学校	全日制課程	80	275	27	111
佐久長聖高等学校	全日制普通科	320	960	336	1,027
佐久長聖中学校	—	140	420	99	317
合 計		605	1,765	516	1,557

5. 収容定員充足率

学校名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
長野女子短期大学	76%	84%	93%
長野女子高等学校	43%	47%	41%
佐久長聖高等学校	103%	106%	107%
佐久長聖中学校	79%	76%	76%

6. 役員の概要

（令和 5 年 9 月 20 日現在）

理事 定員数 5～9 名 現員数 6 名

監事 定員数 2名 現員数 2名

職 名	氏 名	選任区分		就任年月日
		項・号	選任区分	
理事長（常勤）	伊賀 博之	3号	学識経験者	平成16年10月21日
理事（常勤）	佐藤 康	1号	校長理事	平成30年4月1日
理事（常勤）	小林 経明	1号	学長理事	令和5年9月20日
理事（常勤）	小林 浩	2号	評議委員会選任	平成27年4月1日
理事（常勤）	小林 健雄	3号	学識経験者	令和3年4月1日
理事（非常勤）	市川 雅朗	3号	学識経験者	平成17年7月1日
監事（非常勤）	堀内 勝也			平成29年5月1日
監事（非常勤）	塩沢 均			令和3年4月1日

7. 評議員の概要

（令和5年5月1日現在）

定員数 11～16名 現員数 14名

職 名	氏 名	選任区分		就任年月日
		項・号	選任区分	
評議員	伊賀 博之	1号	法人職員	平成29年4月1日
評議員	小市 昌夫	1号	法人職員	令和4年年4月1日
評議員	佐藤 康	1号	法人職員	平成27年4月1日
評議員	堀内 浩彦	1号	法人職員	平成19年4月1日
評議員	遠藤 孝	2号	卒業生	平成16年4月1日
評議員	由井 義久	2号	卒業生	平成16年4月1日
評議員	小林 良禅	2号	卒業生	平成16年4月1日
評議員	伊賀 博之	3号	学識経験者	平成17年7月1日
評議員	市川 雅朗	3号	学識経験者	平成18年10月21日
評議員	小林 健雄	3号	学識経験者	令和3年年4月1日
評議員	小林 浩	3号	学識経験者	平成22年4月1日
評議員	佐々木義明	3号	学識経験者	令和25年4月1日
評議員	野路 美徳	3号	学識経験者	平成23年8月1日
評議員	平出 淳史	3号	学識経験者	平成30年4月1日

8. 教職員の概要

(令和5年5月1日現在)

区分		法人本部	長野女子 短期大学	長野女子 高等学校	佐久長聖 高等学校	佐久長聖 中学校	合 計
教 員	本 務		14	9	79	27	129
	兼 務		8	12	8	6	34
職 員	本 務	3	7	4	27	13	54
	兼 務		2	0	9	1	12

Ⅱ 事業の概要

1. 法人全体

令和5年度は、計画どおり4月に学校法人長野家政学園と学校法人聖啓学園の法人合併の手続きがおこなわれ、学校法人長聖としてスタートし、運営する学校は、長野女子短期大学、佐久長聖高等学校、長野女子高等学校、佐久長聖中学校の4校、生徒の在籍数では1,557名となった。あわせて、令和6年度開校する新設校3校（小学校2校、中等教育学校1校）と短大の男女共学化に向けた準備および新学科設置準備も進め、それぞれ認可を受け、各校の入試も計画どおり実施された。

施設整備の面では、佐久長聖高校の格技館耐震工事の実施、長野と佐久を結ぶ法人内全体のネットワーク整備、短大の学科設置に伴う学内改修工事、新設小学校等の校舎竣工にむけた工事、教具校具取得を前年度に引き続きおこなってきた。また、昨年より進めている新校3校の教員採用も進め、当初計画どおり開校に至った。

【主な事業】

(1) 合併に係る手続き関係

- ①合併登記及び法人名変更登記（学校法人長聖として令和5年4月1日付けで登記）
- ②固定資産の所有権移転並びに法人名変更登記（土地、建物を学校法人長聖へ変更）
- ③私学事業団、税務署、労働局、市町村等への法人名称の変更手続き
- ④金融機関への名義変更手続き

(2) 学校新設等認可申請業務

- ①サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久校及び長野校（二次審査）
（令和5年10月30日設置認可）
- ②サミットアカデミーセカンダリースクール長野 設置認可申請（二次審査）

(令和5年10月30日設置認可)

③長野女子短期大学幼児教育学科設置認可申請 (令和5年9月4日設置認可)

④法人合併に伴う設置者変更により長野女子短期大学食物栄養学科の新規指定申請
(厚生労働省)

(3) 施設設備取得工事

①新設校校舎新築・改修工事

②新設学校用機器備品の購入

③土地取得 (佐久長聖高校用)

④佐久長聖高校格技館耐震工事

⑤法人内ネットワークの構築

2. 理事会及び評議員会の開催状況

理事会

第1回 令和5年4月19日

・学園の中長期事業計画について・学科名称の変更に伴う寄附行為変更について

第2回 令和5年5月31日

・令和4年度事業報告並びに決算について・サッミト3校設置に係る寄附行為変更について

第3回 令和5年7月5日

・佐久長聖中学・高等学校学則変更に関する件・佐久長聖高校新コースに関する件

第4回 令和5年9月20日

・第1号理事の選任について・佐久長聖中学校学則変更に関する件・寄附行為変更

第5回 令和5年12月6日

・上半期中間決算について・教育課程の変更について (佐久長聖高等学校)

第6回 令和6年3月27日

・第3号評議員の選任・令和5年度収支補正予算(案)・令和6年度事業計画並びに

収支予算書(案)に関する件・短大名称変更に伴う寄附行為変更について・佐久長聖高校体育館耐震工事に関する件

評議員会

第1回 令和5年4月19日

・学園の中長期事業計画について・学科名称の変更に伴う寄附行為変更について

第2回 令和5年5月31日

- ・令和4年度事業報告並びに決算について・サッミト3校設置に係る寄附行為変更について

第3回 令和5年7月5日

- ・佐久長聖中学・高等学校学則変更に関する件・佐久長聖高校新コースに関する件

第4回 令和5年9月20日

- ・佐久長聖中学校学則変更に関する件・寄附行為変更

第5回 令和5年12月6日

- ・上半期中間決算について・教育課程の変更について（佐久長聖高等学校）

第6回 令和6年3月27日

- ・第2号理事の選任・令和5年度収支補正予算(案)・令和6年度事業計画並びに収支予算書(案)に関する件・短大名称変更に伴う寄附行為変更について・佐久長聖高校体育館耐震工事に関する件

3. 長野女子短期大学

3-1 建学の精神

『配慮ある愛の実践』

創立者であり初代学長の小林倭文（しずり）先生は、女性はゆくゆく母となり、子どもをもうけ、命をかけてその子どもを教え導いていかなければならない、女性は家庭内にあってその核となる存在だから、「女子にこそ高等教育が必要である」と考えた。

そして、家庭を中心とした人間の生活を対象とし、そこでの人間の営為を分析研究する家政学を基盤とした小型の女子高等教育機関を、大自然に抱かれた環境の良い長野の地に開学した。

その際に「配慮ある愛の実践」を教育の柱に掲げた。これは、自分の周囲のものに絶えず関心を示し、自分自身はもとより家族や友人、社会の全ての人々、さらには世の中すべての生きとし生けるものの命に対して、深い労わりと思いやりをもって接することのできる人間の育成を図ろうとするものである。

※創立者の「女子にこそ高等教育が必要である」という思いを理解していただくために「女性はゆくゆく母となり、子どもをもうけ、命をかけてその子どもを教え導いていかなければならない」という

言葉をここに載せている。これは明治、大正、昭和、平成を生きてきた創立者の考えである。現在の本学では、女性の多様な生き方を尊重している。

2023 年度は、本学にとって大きな節目となる年であったと言える。幼児教育学科の開設及び男女共学化に向けて、校舎の改築、教育の質の保証、地域貢献の充実、更に経営改善を行なった。

3-2 主な教育・研究の概要

○教育理念

本学は、建学の精神「配慮ある愛の実践」を根底に据え、『心豊かな人間の育成』を教育理念とし、次のような基本的考えに基づき教育活動を行っている。

1. 豊かな人間性と専門性、幅広い教養を育てる
2. たくましく生きる人間を育てる
3. 思いやりと豊かな感受性を育てる
4. みずから考えて行動できる力を育てる

○教育目標

食物栄養学科

- (1) 幅広い教養、食物栄養に関する専門知識及び技術を身につけ、優れた実践力を育成する。
- (2) 人の尊厳を大切にす豊かな人間性と食物栄養の専門職としての責任感・倫理観を育成する。
- (3) 社会の変化に適応でき、女性の視点で地域社会に貢献し、その発展に寄与できる人材を育成する。
- (4) 主体的に考え行動し、幸福な人生を自ら切り開いていく自立した態度と意欲を培う。

○3つのポリシー

本学は、自らの建学精神と教育理念に基づき、育成すべき人材像を明確にするために「卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」を定め、また、それを実現するための適切な教育課程を編成し、体系的・組織的な教育活動を行うために「教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」を定めた。そして、本学の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施するために「入学者受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」を定めた。

・食物栄養学科 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学に 2 年以上在籍し、所定の単位を修得した学生は、以下の到達目標に達した者で

あると認定し、卒業と同時に「短期大学士」の学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性を持ち、幅広い教養と社会人としてのマナーを兼ね備えている。
- (2) 食の専門家としての責任感と倫理観を持って、社会に貢献できる専門知識と技能を身に付けている。
- (3) 多様な課題に対して主体的に考え、コミュニケーションを図りながら協働して活動する態度を身に付けている。

・食物栄養学科 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

本学が掲げる教育目標を達成するため、以下の教育課程を編成する。更に栄養士、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、ベーシックきのかマイスターの資格が取得できるように教育課程を編成する。

- (1) 豊かな人間性、および幅広い教養を身につけるために、多様な分野から教養科目を設置する。
- (2) 専門知識を身につけ、自ら考えて行動できる力をつけるために、以下の専門分野について学べる教育課程を編成する。
「社会生活と健康」 「人体の構造と機能」 「食品と衛生」
「栄養と健康」 「栄養の指導」 「給食の運営」
- (3) 講義、実験、実習、演習など、多様な授業形態で理論、技能および実践を学修する。
- (4) 適性に合わせて学修計画を立ててキャリアを選択できるよう、4つの資格（栄養士、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、ベーシックきのかマイスター）取得に必要な科目を配置する。
- (5) 表現力、思考力、コミュニケーション能力などを実践的に学ぶ地域に密着したカリキュラムを設置する。

・食物栄養学科 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

本学の教育理念、教育目的、教育目標に共感する以下のような学生を求める。

- (1) 高等学校卒業程度の基礎学力を有し、自分の考えを言葉・文章として表現できる人
- (2) 食を食べること、食事を作ること、食に関することに関心がある人
- (3) 他者と良好な関係を築くことができ、基本的な生活力を持っている人
- (4) 意欲的にコミュニケーションをとり、協働できる人
- (5) 食生活と健康に関する専門性を、職場、家庭、地域社会の中で役立てたいと思っている人
- (6) 栄養士資格取得を目標に勉学する意志がある人

3-3 教育・研究活動の基盤整備に関する事項

教学の充実として、(1)教育の改革と質保証 (2)学生支援 (3)地域連携 (4)学生確保 (5)研究活動の活性化 (6)キャンパス整備 を掲げている。

以下、2023 年度の達成状況について報告する。

(1) 教育の改革と質保証

教学カリキュラムに関しては、講義科目は、55 名の 1 クラス編成(プロジェクター、スクリーン、マイク、スピーカーを設置)。実験、実習、演習は 27 名、28 名の 2 クラス編成としている。また、Google classroom を用いて課題提出、回収をし、学修成果の可視化等を図りつつ施行した。

① 教育の質保証の取り組み

A) シラバスの内容の見直しと充実

- ・建学の精神である「配慮ある愛の実践」を更に身に付けるため科目は、シラバスの授業内容に明記した。「給食管理実習Ⅱ」は校外実習実施要領に明記した。
- ・シラバスの記載項目、内容の見直しと充実を行った。
- ・オリエンテーションで、カリキュラムマップを使い、ディプロマ・ポリシーにむけた、授業科目の配置と関連を説明した。
- ・常勤・非常勤教職員で、建学の精神、教育の質等を深める懇談研修会を行った。

B) カリキュラムマネジメント体制の充実

- ・科目ナンバリングを作成し、授業科目に適切な番号を付して分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示した。
- ・5段階 GPS を実施し、その適正活用について検討した。

C) 自己点検・評価活動の実施

- ・短期大学基準協会による第三者評価の結果を活用し整備、改善を行った。
- ・2022（令和 4）年度自己点検・評価報告書を作成し HP 上に公開した。

D) FD・SD 活動の充実

- ・FD 委員会による学生からの授業評価アンケートを実施した。結果については、以下のとおりである。

授業評価アンケート質問項目別平均

質問事項	2018年度 (平成29)		2019年度 (平成30)		2020年度 (令和2年)	2021年度 (令和3年)		2022年度 (令和4年)		2023年度 (令和5年)	
	前期	後期	前期	後期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1 この授業を何回欠席しましたか ①5回以上②4回③ 2～3回④ 1回⑤ 0回	4.48	4.36	4.63	4.55	4.48	4.50	4.28	4.37	4	4.22	4.01
2 この授業を、マナーを守って受講しましたか (私語・携帯電話・飲食・居眠り等)	3.90	3.90	3.94	3.97	4.18	4.38	4.30	4.24	4.24	4.35	4.21
3 この授業に必要な教材・教具(教科書・プリントなど)を準備して のぞみましたか	4.42	4.29	4.19	4.30	4.43	4.64	4.48	4.45	4.44	4.59	4.38
4 この授業の予習・復習などの学習をしましたか	3.30	3.43	3.19	3.37	3.55	3.63	3.53	3.6	3.71	3.82	3.86
5 あなたは、この授業の授業概要(シラバス)を理解していますか	3.54	3.52	3.27	3.46	3.68	3.67	3.77	3.83	3.84	4.03	4.00
6 この授業の内容は、あなたにとって易しかったですか・難しかった ですか ①かなり難しい②やや難しい③ちょうどよい④やや易しい⑤かなり 易しい	3.19	3.11	2.95	3.01	3.86	3.95	3.93	3.9	3.95	4.16	4.11
7 授業の学習量は適切であると思いましたか	3.78	3.74	3.65	3.93	3.82	4.03	4.06	3.93	4.03	4.27	4.14
8 教員の話方や説明の仕方は適切であると思いましたか	3.88	3.88	3.92	4.09	3.94	4.13	4.15	4.08	4.12	4.30	4.20
9 板書や資料の示し方は、良いと思いましたか	3.89	3.91	3.94	4.15	3.95	4.20	4.21	4.12	4.13	4.33	4.21
10 授業の進行速度は適切であると感じましたか	3.84	3.82	3.85	4.07	3.92	4.11	4.20	4.08	4.08	4.30	4.17
11 意見や質問を出しやすい授業でしたか	3.79	3.84	3.79	4.02	3.80	4.11	4.12	4.04	4.04	4.19	4.10
12 授業を受けた成果はあったと思いますか	3.96	3.98	3.93	4.03	3.92	4.22	4.25	4.12	4.16	4.32	4.21
13 授業内容に興味を持ってましたか	3.91	3.94	3.88	4.08	3.95	4.21	4.20	4.06	4.11	4.27	4.18
14 教育の設備・環境は十分であると思いましたか	3.96	3.86	3.91	4.12	4.07	4.24	4.29	4.14	4.17	4.39	4.23

- ・FD 研修会を実施した。
「メンタルヘルス研修会」
講師：イチカワドイル徳恵先生
- ・FD 通信を発刊した。
- ・SD 活動として、研修会を実施した。
「メンタルヘルス研修会」
講師：イチカワドイル徳恵先生

② ICT を活用した教育の推進

A) 教育における ICT 機器の活用と研修

- ・新入生を対象に、Google classroom をスムーズに活用できるよう、Google workspace 講習会を開催し、その後も支援を続けている。

- ・教職員間や学生への連絡、授業内での課題にも Google classroom を利用し、課題提出、情報共有、安否確認、アンケート調査等を実施した。
- ・学生及び非常勤講師の自宅での ICT 環境を調査し、個別に対応した。

③ 導入教育・初年次教育・キャリア教育の充実

A) 入学前教育の点検と見直し

- ・入試合格者の入学前教育において、化学基礎力、計算力、料理技術、読書力の向上を計った。

B) 初年次教育の確立

- ・初年度教育として、基礎学力定着を目的とする教科についてシラバスに明記した。

C) キャリア教育の充実

- ・栄養士の養成はキャリア教育であるため、キャリア系授業において、職業意識の形成、一生を通したキャリア設計ができるようにした。

④ 教育の質の実績

免許、資格の取得率、学修時間・学修行動、学修成果の把握について、学生の現状や傾向などについて把握するとともに、アセスメントプランについて検討を行った。学修評価の観点・基準を定めたルーブリックを活用した。

A) 学位授与数、単位取得数、免許、資格の取得率は、以下のとおりである。

<学位授与数・単位取得数>(単位:人)				
食物栄養学科			令和6年3月31日現在	
	年度	卒業者数	学位授与数	単位取得数
	令和5年度	47	47	74.6単位(81単位中)
	令和4年度	42	42	72.3単位(81単位中)
	令和3年度	54	54	74.6単位(81単位中)
	令和2年度	37	37	77.1単位(81単位中)

<資格取得・単位取得状況>(単位:人)					
食物栄養学科			令和6年3月31日現在		
	栄養士	フードスペシャリスト	健康管理士一般指導員	ベーシックきのこマイスター	単位取得状況
令和5年度	43	24	19	40	74.6単位(81単位中)
令和4年度	41	13	14	23	72.3単位(81単位中)
令和3年度	53	23	20	10	74.6単位(81単位中)
令和2年度	37	21	22		77.1単位(81単位中)

＜食物栄養学科(資格取得)＞(単位:人)						
				令和6年3月31日現在		
	栄養士免許					
		年度	卒業者数	取得希望者数	取得者数	取得率(%)
		令和5年度	47	43	43	100
		令和4年度	42	41	41	100
		令和3年度	54	53	53	100
		令和2年度	37	37	37	100
		令和元年度	48	48	47	98
		平成30年度	44	44	42	95
		平成29年度	44	44	43	98
		平成28年度	44	44	42	95

	フードスペシャリスト資格					
		年度	卒業者数	取得希望者数	取得者数	取得率(%)
		令和5年度	47	29	24	83
		令和4年度	42	14	13	93
		令和3年度	54	25	23	92
		令和2年度	37	23	21	91
		令和元年度	48	44	32	73
		平成30年度	44	33	27	82
		平成29年度	44	35	21	60
		平成28年度	44	34	18	53

健康管理士一般指導員資格						
		年度	卒業者数	取得希望者数	取得者数	取得率(%)
		令和5年度	47	19	19	100
		令和4年度	42	14	14	100
		令和3年度	54	21	20	95
		令和2年度	37	22	22	100
		令和元年度	48	9	8	89
		平成30年度	44	34	31	91
		平成29年度	44	16	15	94
		平成28年度	44	10	10	100

	ベーシックきのこマイスター					
		年度		取得希望者数	取得者数	取得率(%)
		令和5年度	1.2年含む	40	40	100
		令和4年度	1.2年含む	23	23	100
		令和3年度	1.2年含む	11	10	91

B) 学修時間・学修行動については、以下のとおりである。

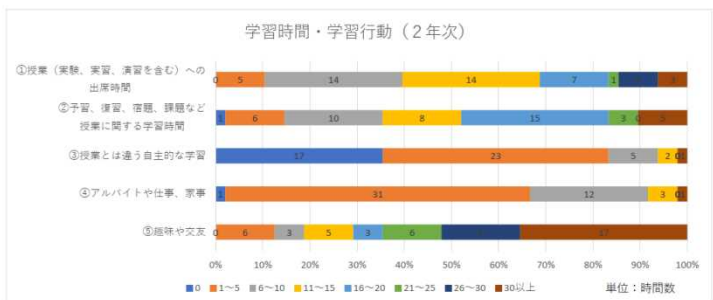
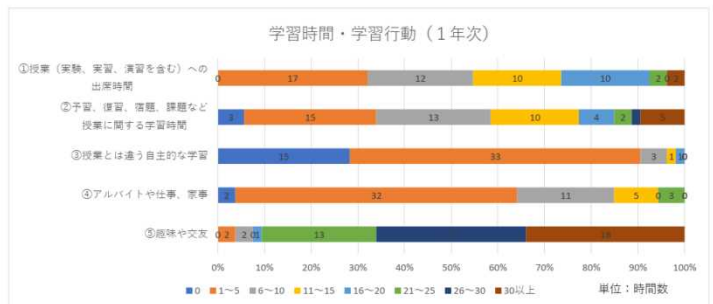
2023年度 前期学習時間

1年次

2023年入学 Eクラス 1年次 前期	①趣味や交友	②アルバイトや仕事、家事	③授業とは違う自主的な学習	④予習、復習、宿題、課題など授業に関する学習時間	⑤授業（実験、実習、演習を含む）への出席時間
0	0	2	15	3	0
1～5	2	32	33	15	17
6～10	2	11	3	13	12
11～15	0	5	1	10	10
16～20	1	0	1	4	10
21～25	13	3	0	2	2
26～30	17	0	0	1	0
30以上	18	0	0	5	2
53	53	53	53	53	53

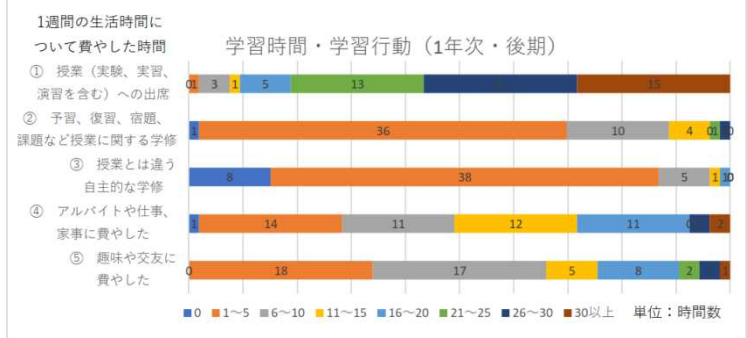
2年次

2022年入学 Aクラス 2年次 前期	①趣味や交友	②アルバイトや仕事、家事	③授業とは違う自主的な学習	④予習、復習、宿題、課題など授業に関する学習時間	⑤授業（実験、実習、演習を含む）への出席時間
0	0	1	17	1	0
1～5	6	31	23	6	5
6～10	3	12	5	10	14
11～15	5	3	2	8	14
16～20	3	0	0	15	7
21～25	6	0	0	3	1
26～30	8	0	0	0	4
30以上	17	1	1	5	3
48	48	48	48	48	48



2023年度後期学習時間

2023年 入学 Eクラス 1年次 後期	1週間の生活時間について費やした時間				
	① 授業（実験、実習、演習を含む）への出席	② 予習、復習、宿題、課題など授業に関する学修	③ 授業とは違う自主的な学修	④ アルバイトや仕事、家事に費やした	⑤ 趣味や交友に費やした
0	0	1	8	1	0
1～5	1	36	38	14	18
6～10	3	10	5	11	17
11～15	1	4	1	12	5
16～20	5	0	1	11	8
21～25	13	1	0	0	2
26～30	15	1	0	2	2
30以上	15	0	0	2	1
/53	53	53	53	53	53



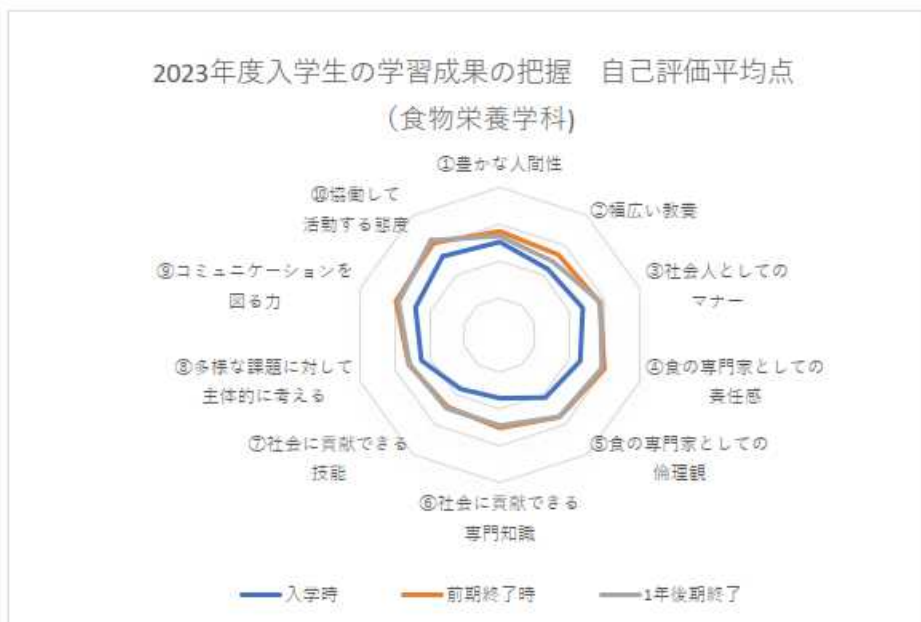
2022年 入学 Aクラス 2年次 後期	1週間の生活時間について費やした時間				
	① 授業（実験、実習、演習を含む）への出席	② 予習、復習、宿題、課題など授業に関する学修	③ 授業とは違う自主的な学修	④ アルバイトや仕事、家事に費やした	⑤ 趣味や交友に費やした
0	0	1	12	0	0
1～5	0	30	31	13	10
6～10	3	12	3	9	12
11～15	7	2	0	8	9
16～20	14	0	0	5	8
21～25	7	1	0	5	1
26～30	11	1	0	0	2
30以上	5	0	1	7	5
/48	47	47	47	47	47



C) 学修成果の把握については、以下のとおりである。

学生の学習成果の把握

「卒業の認定に関する方針」(ディプロマポリシー)に定められた学修目標の達成状況を自己評価する。実施時期ごとの結果を入学年度の学生全体の平均点として示す。





(2) 学生支援

① 学生相談体制の強化

A) 教職員による学生支援

- ・学生の心身のセルフケア能力向上のための支援、アレルギーを有する学生等のリスク管理等を、総合的な学生支援の強化に向け、適切な情報提供を行った。
- ・クラス担任、副担任、学科会、保健衛生係、教務学生課、教職員で連携をとり、学生の相談にあたった。
- ・奨学金に関しては、担当職員から、独立行政法人 日本学生支援機構が運営している奨学金制度、国よりの高等教育修学支援新制度、授業料等の減免制度等を各種、案内した。
- ・Google classroom を活用して学生の安全確認、情報提供を行った。

② 課外活動の充実

A) サークル活動のための設備の充実・支援

- ・サークル活動は活発に行った。
- ・学生会新聞を発行した。

B) ボランティア活動のための支援

- ・一般社団法人日本きのこマイスター協会と包括的連携に関する協定を締結し、地域社会の発展に資するため、ボランティア活動に積極的に参加した。
- ・キッズサイエンスボランティアとして、子ども達に科学の楽しさを伝えた。

C) 大学祭と体育祭の内容充実と支援

- ・体育祭を開催した。
- ・しらうめフェスティバル（大学祭）を開催した。

③ 同窓会・卒業生、保護者とのネットワーク構築

A) 同窓会活動の充実

- ・白梅会（同窓会）役員会、総会を実施した。
- ・情報発信を行った。
- ・ホームカミングデーを実施した。

B) 後援会、保護者との連携

- ・後援会役員会、総会を実施した。
- ・保護者懇談会、個別相談会を実施した。

C) 社会で活躍している卒業生との交流

- ・校外実習の事前授業として、社会で活躍している卒業生による講演・交流を行った。

④ 就職支援体制、キャリア支援体制の充実

A) 栄養士としての就職率 100% を 14 連続の更新

- ・就職支援の取り組みは、就職担当職員、教員、クラス正副担任、本学を担当するハローワークからの外部講師が連携して、キャリア形成、自立心の向上、就職内定につなげている。栄養士としての就職率は 14 連続 100% となった。インターンシップに行く学生も増えている。
- ・一般職、専門職を含め、全体の就職率も 100% であった。
- ・進学者は 1 名であった。

B) 就職先企業の調査と現状把握

- ・教員は、校外実習に行った学生を巡回するために、卒業生の就職先を訪問している。その折、就職先企業の調査と開拓、現状把握に努めた。
- ・就職担当職員は、企業との情報交換等を通じて関係強化に努めた。

C) 卒業生のキャリア（就職、進学等）の状況把握

- ・卒業生のキャリアに関するアンケート調査を、卒業生の就職先に実施した。

⑤ 図書館の活用、学食

A) 図書館、学食の利用

- ・図書館は開館した。コロナ禍以前の入館者数や貸出数にほぼ戻っている。校舎の改修工事に伴い、蔵書の点検、整理を行った。
- ・学食は、信州食育発信 3 つの星レストランに登録されており、食事のバランスが良い、郷土料理や旬の食材を生かしたメニュー提供、食べ残しによる生ごみの発生抑制のため、ご飯の量など小盛りメニュー、ハーフサイズメニューの設定をしている等、評価されている。新規メニューも多い。

(3) 地域連携

① 高大連携・高大接続の推進

A) 高校・短大連絡懇談会の充実

- ・高校・短大連絡懇談会に学長が参加して、情報交換を行った。
- ・高大連絡会を実施した。本学を会場に高校の先生を対象として情報交換を行った。

② 行政・企業・他大学・外部機関との連携強化

A) 産官学連携

- ・一般社団法人日本きのこマイスター協会と包括連携協定を締結した。教育及び人材育成、研究開発、新規事業の創生、人材交流、地域貢献等の分野で相互に連携・協力し、地域産業及び社会の発展に寄与することを目的としている。
- ・柄木田製粉(株)、原田製麺(株)と本学で、小麦粉を使った機能性表示食品の共同開発に取り組んでいる。

B) 長野県

- ・長野県長野保健福祉事務所からの依頼で「あなたの塩分チェックシート」に学生、教職員が記入してまとめた。
- ・長野県健康福祉部健康増進課「信州食育発信 3つの星レストラン」認定店活動に参加し、本学の学食を「信州食育発信 3つの星レストラン」認定のために学食のメニューを栄養計算した。
- ・長野県地域医療介護総合確保基金事業（介護従事者確保分）を実施した。
- ・「長野地域食育推進連絡会委員」「長野県次期総合 5 か年計画『長野地域計画』策定に係る地域懇談会構成員」として、様々な活動を通じて地域・社会に貢献した。

C) 長野市

- ・長野市こども政策課「子ども子育てフェスタ」に学生が作った食育レシピを展示し、情報発信をした。
- ・長野市保健所健康課からの依頼で「推定尿中食塩排泄量」、「尿中 Na/K 比」の測定、「あなたの塩分チェックシート」の記入に協力した。
- ・「長野市保健所運営協議会委員」「長野市健康増進・食育推進審議会委員」「長野市社会福祉審議会委員」「長野市健康ながの 21 推進市民の会会長」として、様々な活動を通じて地域・社会に貢献している。

D) 長野県栄養士会

- ・「栄養の日イベント」に参加して、県庁食堂において、食生活のあり方について情報発信した。また東急ライフにおいて、一般住民に減塩やフレイル予防について情報発信した。

- ・「長野県栄養改善学会」に参加し、（公社）日本栄養士会代表理事会長中村丁次先生学術講演会により、学生として栄養士の原点とこれからの在り方を考える講演を聴いた。
- ・「北信支部糖尿病公開講座」に参加し卒業後栄養士として業務に活用できる実践的な勉強をした。
- ・「長野県栄養士会研究教育協議会北信支部役員」「長野県栄養士会理事」「長野県栄養士会北信支部長」「日本栄養士会災害支援チーム JDA-DAT リーダー」として、様々な活動を通じて地域・社会に貢献した。

E) 八十二銀行

- ・「金融リテラシー」講座を、2 学年後期最後の「総合演習」で、卒業前教育として受講した。

③ 正課授業の開放（リカレント教育を含む）事業

- A) 高齢者向け生涯学習事業として、「シルバー人材センターライフサポートサービス班」に「料理講習会」を毎年実施している。地域で暮らす高齢者に向けた訪問サービスをする際、役に立つ調理を学ぶ講習会として、教員が講師、学生が助手となり実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。
- B) 信学会長野北幼稚園の親子に向けた講義「幼児の食」を本学食物栄養学科の教員が講師となり実施した。

④ ボランティア活動

- A) 長野工業高等専門学校「キッズサイエンス」へ参加した。学生が、親子 100 人に向けて「体験教室～カルメ焼きを作ってみよう～」をテーマに、科学の不思議、楽しさ、面白さを体験できるワークショップボランティアを行った。
- B) NPO 法人ながのこどもわくわくカフェ「こどもカフェ」へボランティア活動として、無料の昼食・夕食提供、子どもの宿題支援と食育活動を実施した。

⑤ 公開講座

- A) 本学教員を講師に行う公開講座を毎年実施してきたが、年度初めは新型コロナウイルスの感染が継続しており、終息の時期が見通せなかったため、受講して下さる方々の安全を保障できないという理由で、中止とした。

(4) 学生確保

① 入試・広報活動の推進

- A) パンフレット・WEB の充実
- ・学校案内、ホームページ、募集要項等を充実作成した。LINE、インスタグラム、学校 PR 動画の配信を積極的に行い、情報の周知に努めた。
- B) 高校訪問、進学相談会、出前授業、高大連絡会等の実施

- ・高校訪問、進学相談会、出前授業、ガイダンス、長野県私立 8 短大製作のテレビ CM、新聞等広告により募集活動を実施した。
 - ・高大連絡会を実施して、高校の先生への周知による入学者増につなげた。
- C) オープンキャンパスの内容・日程等の見直し・充実
- ・オープンキャンパスは 4 回実施した。コロナ禍のため、時間を短縮して行った。学長挨拶、概要説明、入試説明、施設見学、個別相談等を実施し、出願につなげた。
- D) 入試日程、内容の見直し
- ・入学者選抜に、総合型選抜Ⅱ期（併願）を追加して組み入れ、受験生が志願し易い選抜方法への改善と、アドミッションポリシーに沿った試験内容の見直しを行った。
- E) 入学金減免制度の継続
- ・本学の卒業生、在学生および卒業生の姉妹の子女に、入学金を半額（100,000 円）とする減免制度を継続した。
- F) 栄養士養成科委託訓練生入学制度の活用
- ・社会人学生入学者のうち、長野県長野技術専門校を通して、栄養士養成科委託訓練生 3 名が、社会人選抜での入学生となった。

令和5年5月1日現在					
	入学定員	入学者数		収容定員	在籍者数
			うち社会人学生入学者		
食物栄養学科	55	54	4	110	102

(5) 研究活動の活性化

① 研究活動・研究成果の発表

- A) 研究紀要の発刊継続
- ・研究紀要第 20 号を発刊した。
- B) 学会、研修会への参加
- ・学会、研修会は WEB 開催が多かったが、本学の研究活動の活性化のため、参加に努めた。

(6) キャンパス整備

① キャンパス整備計画

- A) キャンパス整備計画の検討と実施
- ・老朽化している校舎の改修を行った。
 - ・「幼児教育学科」令和 6 年 4 月 1 日開設に向けて、キャンパスを整備した。

4. 長野女子高等学校

○教育目標

令和5年度に創立98年を迎えた本校は、県下で最も歴史がある女子高校で、一貫して女子教育を行ってきた。雪に耐えて梅花麗しというように、秋に葉を落とし、己の幹一本で厳寒の冬を耐え抜き、春真っ先に可憐な花を咲かせる白梅の強靱さと凜とした佇まいを本校生徒の理想像とし、建学の精神を「梅花不撓風雪」としている。

この建学の精神のもと、教育目標として、「礼儀を重んじ、思いやりの心を持ち、女性らしい温雅と清らかな心を培う」（礼節）、「自らの知識と技能を体得し、正しく広く真理を追究していく清新な姿勢と能力を養う」（教養）、「責任と義務を自覚し、思慮深い適切な判断で行動できる実践力を養う」（誠実）を掲げている。

○教育課程と生徒数

令和5年度は、閉校前の最後の入学生27名を迎え、全校生徒5クラス110名でスタートした。新教育課程（コース改編）実施の2年目となり、コース毎の人数は、第2学年2クラス42名のうち、A組19名／進学コース9名、生活文化コース10名、B組23名／クリエイティブコース）、第3学年は2クラス41名のうちA組21名／リベラルアーツ進学コース4名、看護医療系進学コース5名、生活文化コース12名、B組20名（情報メディアコース20名となった。

○令和5年度の重点目標

令和5年度の重点目標は「ハードワークとリスペクト」

「ハードワーク」は、生徒の学習及び活動に対し、負担感を与えずに負荷をかけながら、その前提となる基礎力として「指示通りができる力」をつけることと、その上でそれぞれの場面で可能性を引き出し、力を発揮できるよう一人ひとりを「リスペクト」する、とした。そのために、①授業力アップの取り組み ②見逃さない、先送りしない、抱え込まない、見て見ぬ振りをしない ③見る、聴く、話す、相談に乗る（相談しやすい）、考えさせる、共に何かをする、何かをさせる、その上で適切な距離を保つ。④教師としての矜持、品格を持ち、頼れる存在として「育てたい生徒」に育つようサポートする（生徒の実力の涵養）、とし、以下の項目に対し、教師が創意工夫し、情熱をもって取り組み、生徒の学校生活が充実するよう図った。

① 学力・進路指導の充実

1.基礎学力向上と資格取得の推進

- ・「わかった」と「できた」をつなげ、負担感を与えずに負荷をかける。
- ・メモをとる習慣をつけさせる（学習習慣の定着）。
- ・人の話を聞く力をつける。
- ・語彙力、文章力、表現力を身につける。読書の奨励
- ・ライフプランを考える。金融リテラシー（資産形成）、家計管理・金融トラブル（多重債務など）。
- ・立場や考え方の違いを理解し、受け入れることができる、適切なコミュニケーション力をつける。
- ・コースに見合った実力をつける 外で通用する力 ・資格

2.進路志望の実現に向けての取組

- ・実力養成（進路実現）
- ・小論文及び面接指導、外部模試
- ・自己を客観視できる情報提供と意欲換気
- ・受験対策

② 生徒指導の充実 ～過保護にならない、しかし放任しない指導～

建学の精神に根差した「粘り強く取り組む生徒」の育成

- ・倫理観、道徳観、想像力を育くむ指導
 - 基本的な生活習慣・規範意識の確立、担任力の強化（クラス経営能力の強化）
- ・挨拶・清掃・クラス経営…凡事徹底・「時を守り、場を清め、礼を正す」（森信三）
- ・いじめ（含 SNS への書き込み、投稿）、長欠（不登校）等に対する生徒指導（初動重視）
- ・事情を抱えた生徒に対する指導（抱え込まない）
- ・望ましい友人関係の構築（性急な友人作りの危うさ）
- ・交通安全指導の徹底
- ・自転車、歩きスマホ等による事故防止（自転車通学者はヘルメット着用を義務とする）
- ・登下校時の安全対策（夜間、不審者）
- ・自殺防止→思いやりと命を大切にする教育の推進
- ・災害への備え

③ 保健安全指導の充実

- ・保健安全指導の徹底・感染症対策指導の徹底
- ・性教育、薬物乱用防止教育の実施
- ・教職員の健康保持

○令和5年度の主な取り組みと活動

- ・新学習指導要領実施の2年目として、観点別評価方法の理解をさらに進めた。

- ・修学旅行を4月、国内2泊3日で実施した。（京都、奈良、大阪）
- ・県内外の大学・短大・専門学校の進路担当者による進路ガイダンス、分野別説明会と講演会を開催した（年2回）。
- ・第68回白梅祭をコロナ前の形態（一般公開）に戻し、開催した。
- ・吹奏楽部がNHKコンクール・合唱サマーフェスティバルに参加した。
- ・夏季休業中に、一日看護体験、福祉の職場体験、サマーチャレンジボランティアに参加した。
- ・インターアクトクラブが地域活動（「三輪こども学校」）に参加した。
- ・全学年による合同レクリエーションを校内にて実施した。
- ・クッキング部が「長野市農業フェア2022」に参加。オリジナルおやきの販売を行った。
- ・三輪地区住民自治協議会のお祭り行事（「三輪ひまわり広場」）にインターアクト、クッキング、ファッション、美術、ダンスの各部が参加、併せておやき店（豊誠堂）とコラボレーションして作ったおやきや手作り玩具、「三輪たんぼ」で収穫した米で作った米パフの販売、工作教室、ダンスの発表を三輪公民館で実施した。
- ・避難訓練・防災学習を実施した。
- ・スタンフォード大学ハートフルネスラボ創設者の心理学者スティーブン・マーフィ重松氏によるマインドフルネスの講演を開催した。
- ・クッキング部が市内ビッグハットで開催された「2023年長野市農業フェア」に参加、豊誠堂とコラボレーションして作ったおやきの販売を行った。
- ・インターアクトクラブが長野西ロータリークラブの森林例会に参加、森林整備作業を行った。

また、松本市キッセイ文化ホールで開催された「国際ロータリー第2600地区大会青少年アワー」に参加し、地区代表として活動報告をした。

- ・校内合唱コンクールを長野市芸術館で開催した。
- ・「三輪地区まちづくりのつどい」に生徒会本部役員9名が参加した。
- ・人権教育として、講演会を開催した。（上越教育大学国際交流センター特任教授朝倉有子氏「歴史の中の差別 - アニメ『もののけ姫』を手がかりに」）
- ・吹奏楽部がアンサンブルコンテストにおいて管打四重奏部門で銅賞を受賞した。
- ・吹奏楽部と合唱部が合同で「長野県高校合唱フェスティバル」に参加した。
- ・合唱部が「第26回メサイア演奏会」に参加した。
- ・インターアクトクラブが自作した「三輪かるた」を地元小学校（三輪小学校）に寄贈した。
- ・美術部と美術Ⅱ選択生（3年）が第21回長野市灯明まつり「ゆめ灯り絵コンテスト」に切り絵と大提灯を出展した。
- ・生活文化コースとファッション部が「第10回NAGANOデザインフェスタ」（於長野市北野文芸座）に参加、Tシャツ&クリアファイル部門でアソビズム賞、佳作を受賞した。

- ・ GTEC を校内で実施した。（年 2 回）
- ・ 予餞会を開催した。
- ・ 卒業生 3 学年 39 名を送り出した。

5. 佐久長聖高等学校・佐久長聖中学校

(1) 教育理念：「自由と愛」

(2) 教育方針：「教育は愛と情熱」

礼節・忍耐・誠実の実践による人格の陶冶

個性を尊重し、個を重んじる教育

次の夢を育てる教育

授業やクラブ活動で培った能力を社会に役立てるための人づくり

館（寮）生活による個性の一層の伸長と自立（律）心の育成

一人ひとりが文武両道の中で最高の「夢」の実現をめざす環境を整えています。

その柱となっているのが「五育」

「知育」豊かな教養

「美育」美しいものを美しいと思える感性

「気育」人を思いやる誠実な姿勢

「体育」心身の健康

「徳育」礼節を重んじる心

五育が一体となった全人教育。

教室で、部活動で、館（寮）生活で、豊かな人間性を育み、

高い志をもった人材の育成をめざしています。

(3) 教育目標

1964 年（昭和 39）年に「佐久高等学校」として開校した本校は、1995（平成 7）年、長野県下最初の中高一貫教育を図るため、「佐久長聖中学校」を併設し、それに伴い「佐久高等学校」から「佐久長聖高等学校」へと改称しました。

そして、21 世紀の世界をリードできる国際的視野と豊かな人間性、知性を備えた人財（人的財産）の育成に努めるとともに、難関大学への現役合格を可能とする学力の錬成に全力を傾けています。

また、運動面でも、3 度の全国制覇を誇り 26 年連続で全国大会に出場中の駅伝部、春・夏合わせて 10 回甲子園に出場している野球部、全国高校総体（インターハイ）での 5 度の総合優勝を誇る男子スケート部、このほか、陸上部、柔道部、剣道部、水泳部、ゴルフ部、女子サッカー部、男女バスケットボール部も全国大会で活躍しています。

(4) 令和 5 年度の主な活動

- ・ 佐久長聖高等学校×順天堂大学 高大連携イベント開催
 - －医学の歴史と未来を学ぶ：佐久長聖高等学校の順天堂大学訪問－佐久長聖高等学校生徒 40 名ほどが、高大連携プログラムに参加。
順天堂大学特任教授 天野篤先生、佐久長聖高等学校にてご講演。
- ・ 中国から信男教育学園浦東校の生徒 17 名、上海文来高校の生徒 31 名がそれぞれ、修学旅行の一環で来校し、佐久長聖高等学校の生徒と交流会を行う。
- ・ “Global Studies Program”
50 名の高校生が参加し、イギリスをはじめ、スペインやパキスタン、モンゴルやナイジェリアと世界中から集まった個性豊かな大学生たちとともに、英語漬けの一週間を過ごす。
- ・ スタンフォード大学ハートフルネスラボ創設者の心理学者スティーブン・マーフィ重松氏によるマインドフルネスの講演を開催した。
- ・ 8 月および 10 月に、高校のオープンスクールを開催した。
- ・ 三井住友海上トライアスロン部の椿浩平先生を講師にお迎えし、人権講話を実施した。
- ・ 1 年生希望者による帝京大学のキャンパスツアーが実施した。
- ・ モンゴルから佐久市へ「佐久市ふるさと創生人材育成事業学校交流研修」で来日した小学生から高校生まで 8 名の児童生徒が佐久長聖中学校に来校しモンゴルの舞踊を披露。
- ・ カナダ、オーストラリア、アメリカ、海外語学研修を実施した。
- ・ 2022 年 3 月に本校を卒業し、令和 5 年度に 20 歳を迎えた生徒たちを招いて、二十歳の同窓会を開催した。
- ・ 信州大学医学部地域医療推進学教室信州医師確保総合支援センター信州大学医学部分室の中澤勇一先生を招き、信州大学医学部医学科の入試制度や特色、医学生としての 6 年間のカリキュラムやその後の臨床研修、長野県内の医療の状況など、豊富な資料とともに最新の情報を詳しく説明いただく。
- ・ テーマ「加害者にならないために」インターネット安全教室を開催した。
- ・ 県内外の特色ある大学・専門学校 27 校が参加し、大学説明開会を開催した。

(5) 令和5年度の大学合格実績（過去5か年の推移）

国公立大学															
	2024			2023			2022			2021			2020		
	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
東京							1		1				2	2	4
京都	1		1				1		1						
北海道	1		1				2		2	1		1		1	1
東北	1		1										3		3
東京工業	1		1				1		1						
名古屋		1	1				1		1						
大阪	1		1		1	1	1		1						
筑波	1		1				2		2				1		1
群馬	2		2	2		2	1	1	2				1		1
高崎経済	1		1							2		2		1	1
埼玉	1		1							1		1	4		4
千葉	1		1												
東京医科歯科	1		1												
東京外国語										1		1			
お茶の水女子	1		1												
東京学芸				1		1	2	1	3						
東京海洋	1		1							1		1	1		1
東京藝術	1		1	1		1									
電気通信	2		2												
東京都立							1		1	1		1	3		3
横浜国立	1		1								1	1			
信州	9	3	12	6	4	10	3	3	6	8	1	9	8	3	11
長野県看護	1		1	1		1	2		2	1		1	2		2
長野	3		3	1	1	2	1		1	3		3	3		3
長野県立	1		1	3		3	5		5	2	1	3		1	1
諏訪東京理科				2		2		1	1						
新潟	3		3							5		5	1	2	3
富山	1	1	2		1	1		1	1	3		3	1	2	3
金沢				2		2	1		1	2		2	2		2
山梨	1		1							1		1	2		2
山梨県立				1		1				1		1	1		1
都留文科	2		2	1		1					1	1	1		1
静岡										1		1	1		1
静岡県立							1		1				2		2
奈良女子				1		1				1		1			
大阪公立	1		1	1		1				1		1		1	1
その他	10	4	14	9	3	12	9	3	12	12	1	13	14	5	19
計	50	9	59	32	10	42	35	10	45	48	5	53	53	18	71

文科省管轄外																
	2024			2023			2022			2021			2020			
	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	
防衛医科大学校							4		4				1	1	2	
防衛大学校	1		1										1		1	
航空保安大学校													1		1	
国立看護大学校				1		1										
計	1	0	1	1	0	1	4	0	4	0	0	0	3	1	4	

医学部医学科															
	2024			2023			2022			2021			2020		
	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
北海道							1		1						
名古屋		1	1												
山形								1	1				1	1	2
東京医科歯科	1		1												
信州	2	3	5		2	2				1		1	3	2	5
富山								1	1				1		1
金沢													1		1
名古屋市立														2	2
その他公立					2	2	2		2						
防衛医科							1		1					1	1
自治医科					2	2				1		1	1	2	3
東京医科					1	1							2	1	3
北里		1	1												
国際医療福祉				1	1	2							1	3	4
その他私立	3	2	5	6	12	18	5	2	7		4	4	5	18	23
合計	6	7	13	7	20	27	9	4	13	2	4	6	15	30	45

主な私立大学															
	2024			2023			2022			2021			2020		
	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
早稲田	10		10	3		3	10		10	5	2	7	5		5
慶應義塾	2	1	3	2		2	2	1	3	2		2		1	1
上智	4		4	2		2				1		1	1		1
東京理科	4	1	5	4	1	5	7	2	9	4	1	5	5		5
国際基督教	1		1	1		1	1		1	1		1	1		1
明治	19	4	23	4		4	2	2	4	4	4	8	9		9
青山学院	4	1	5	2	1	3	3	1	4	7	2	9	7		7
立教	12		12	5		5	4	3	7	6	1	7	5	1	6
中央	12	1	13	5	3	8	3	3	6	7	2	9	8	2	10
法政	4	1	5	4	1	5	2	5	7	4	1	5	7	2	9
学習院	4		4	1	1	2	2		2					1	1
同志社	6		6	2	2	4	6		6	5		5	4		4
立命館	3	1	4	1	2	3	3		3	5	1	6	3	2	5
関西				2	1	3	3		3	1		1	1		1
関西学院				1		1	3		3	2		2	2	2	4
成蹊	3		3	2		2									
成城	4		4	2		2									
明治学院	11	1	12	6		6	4	2	6	7		7	5	1	6
獨協	12		12	7	2	9									
國學院	7		7	1	1	2									
武蔵				2		2									
順天堂	5		5	8		8	6		6	6	1	7	4		4
芝浦工業	9		9	1		1	2	1	3	1	1	2	11		11
東京電機	1		1	2	2	4	1		1	1		1	4		4
東京都市	1		1	2	1	3	1		1	2		2	2		2
工学院	6		6	2		2	4	2	6	1		1	2		2
千葉工業	4	4	8	4	1	5	3	2	5	1	2	3	2		2
計	148	15	163	78	19	97	72	24	96	73	18	91	88	12	100

Ⅲ 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 法人全体

令和 5 年度は、法人合併により法人の規模も拡大し収入支出ともこれまでを大きく上回る金額となった。収入については、教育活動収入 2, 0 0 3 百万円と予算を 1 4 9 百万円上回った。学生生徒等納付金や手数料などが概ね予算どおりであったことに加えて、短期大学における幼児教育学科開設に伴い長野市からの私立学校等振興補助金 5 0 百万円、雑収入に消費税還付 8 0 百万円があったことが大幅に予算を超過した要因である。

支出については、教育活動支出が 2, 2 0 4 百万円と予算を 1 3 4 百万円上回る結果となった。要因は教育研究経費の消耗品費が予算を 6 7 百万円上回ったことである。ただし、これは新たに開校した学校向けに購入した備品のうち創設経費に計上すべきところ、会計規程に則り精査したところ備品ではなく、消耗品費として計上したものであり、予算以上の備品関係を購入したものではない。

収入、支出ともに予算を超過し結果として支出が収入を上回ったため、教育活動収支差額は 207 百万円となった。

(2) 資金収支計算書の概要、資金収支計算書の経年比較

(単位:千円)

科目	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
学生生徒等納付金収入	156,094	149,561	149,939	149,206	950,990
手数料収入	2,863	2,532	2,440	2,346	111,577
寄付金収入	568	396	0	109	19,097
補助金収入	76,977	82,103	89,365	93,422	618,844
資産売却収入	237,136	12	8,479	12,507	150,000
付随事業・収益事業収入	1,331	17,376	18,924	7,470	174,083
受取利息・配当金収入	29,474	6,971	5,563	5,863	5,295
雑収入	4,065	32,788	11,669	1,711	125,949
短期借入金収入	0	0	0	0	600,000
前受金収入	31,810	32,850	32,700	30,980	260,126
その他の収入	70,515	107,303	161,134	415,368	3,059,542
資金収入調整勘定	△33,828	△82, 163	△64, 195	△41, 194	△448, 460
年度繰越支払資金	384,789	510,163	393,106	333,913	747,585
収入の部 合計	961,794	859,891	809,124	1,011,704	6,374,632
人件費支出	224,738	274,337	233,647	282,300	1,303,681

教育研究費支出	30,171	31,495	58,861	48,858	381,624
管理経費支出	28,479	25,676	31,354	33,247	168,331
借入金等利息支出	0	0	0	0	12,714
借入金等返済支出	0	0	0	0	692,436
施設関係支出	12,600	323	16,797	122,688	2,765,450
設備関係支出	11,120	5,108	4,863	26,588	137,196
資産運用支出	86,172	77,852	26,516	75,085	0
その他の支出	70,924	96,850	129,655	112,972	172,484
資金支出調整勘定	△12,572	△44,857	△26,483	△16,995	△241,195
翌年度繰越支払資金	510,163	393,106	333,913	326,957	981,906
支出の部合計	961,794	859,891	809,124	1,011,704	6,374,632

注：令和４年度までは学校法人長野家政学園の実績数字を記載。

(3) 活動区分資金収支計算書

(単位千円)

科目	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	241,898	284,756	272,337	254,267	1,999,003
教育活動資金支出計	283,388	331,509	323,862	364,407	1,853,638
差引	△41,849	△46,753	△51,525	△110,140	145,365
調整勘定	1,835	△5,604	434	13,944	△107,539
教育活動資金収支差額	△39,654	△52,357	△51,091	△96,195	37,826
施設整備活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	67,136	26,728	24,538	307,590	2,557,971
施設整備等活動資金支出計	109,892	83,284	48,176	223,606	2,902,647
差引	△42,756	△56,556	△23,638	83,983	△344,675
調整勘定等	8,191	△2,048	△2048	△2,047	94,828
施設整備活動資金収支差額	△34,565	△58,604	△25,686	81,935	△249,846
小計	△74,219	△110,961	△76,777	△14,259	△212,019
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	265,367	84,190	100,286	94,731	1,172,411
その他の活動資金支出計	65,714	90,286	82,701	87,427	725,081
差引	199,593	△6,096	17,584	7,303	447,329
調整勘定等	0	0	0	0	△988

その他の活動資金収支差額	199,593	△6,096	17584	7,303	446,341
支払資金の増減額	125,373	△117,057	△59,192	△6,955	234,321
前年度繰越支払資金	384,789	510,163	393,106	333,913	747,585
翌年度繰越支払資金	510,163	393,106	333,913	326,957	981,906

注：令和４年度までは学校法人長野家政学園の実績数字を記載。

(4) 事業活動収支計算書の状況

(単位：千円)

科目	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
【教育活動収支】					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	156,094	149,561	149,939	149,206	950,990
手数料	2,863	2,532	2,440	2,346	111,577
寄付金	568	396	300	109	19,097
補助金	76,977	82,103	89,365	93,422	618,844
付随事業収入	1,331	17,376	18,924	7,470	172,544
雑収入	4,065	32,788	11,669	1,711	130,065
教育活動収入計	241,898	284,756	272,637	254,267	2,003,119
事業活動支出の部					
人件費	222,915	273,212	231,672	283,056	1,303,680
教育研究経費	108,608	109,354	134,926	122,251	715,395
管理経費	30,492	26,937	33,871	36,535	185,226
教育活動支出計	362,015	409,503	400,469	441,843	2,204,302
教育活動収支差額	△120,117	△124,747	△127,832	△187,576	△201,183
【教育活動外収支】					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	29,474	6,971	5,563	5,863	5,295
その他教育活動外収入	0	0	0	0	1,539
教育活動外収入計	29,474	6,971	5,563	5,863	6,834
事業活動支出の部					
教育活動外支出計	0	0	0	0	12,714
教育活動外収支差額	29,474	6,971	5,563	5,863	△5,879
【経常収支差額】	△90,643	△117,776	△122,269	△181,713	△207,063
事業活動収入の部	58,698	285	1	577	7,362,046
事業活動支出の部	0	0	95,772	2,630	2,217,016

特別収支差額	58,598	285	△95,771	△2,052	5,352,093
基本金組入前当年度収支差額	△32,046	△117,491	△218,040	△183,765	5,145,029
基本金組入額	△6,991	△6,497	0	△129,828	△6,375,667
当年度収支差額	△39,036	△123,988	△218,040	△313,594	△1,230,637
翌年度繰越収支差額	2,338,779	2,214,791	2,171,636	1,858,041	△5,401,398

注：令和４年度までは学校法人長野家政学園の実績数字を記載。

(5) 貸借対照表の状況

令和５年４月１日付けで、学校法人長野家政学園と学校法人聖啓学園は法人合併し学校法人長聖としてスタートした。合併後最初の決算となる平成５年度は、令和５年３月３１日現在の両法人の資産及び負債について、存続法人の学校法人長聖が長野家政学園の資産及び負債の全てを寄附で受け入れる処理とした。

資産の部は対前年度 6,515,968 千円増加し、同様に負債の部は 2,790,806 千円増加した。その結果、純資産は対前年度 4,618,012 千円増加している。

(単位:千円)

科目	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
固定資産	5,484,464	5,461,183	5,298,479	5,134,549	11,650,517
流動資産	513,602	454,300	376,590	345,495	1,238,345
資産の部合計	5,998,066	5,915,483	5,675,069	5,480,044	12,888,863
固定負債	73,854	70,681	68,928	70,528	2,380,285
流動負債	53,062	91,144	70,523	57,662	538,712
負債の部合計	126,917	161,825	139,451	128,191	2,918,997
基本金	3,532,370	3,538,867	3,363,982	3,493,811	15,371,264
繰越収支差額	2,338,779	2,214,791	2,171,636	1,858,041	△5,401,398
純資産の部合計	5,871,149	5,753,658	5,535,618	5,351,853	9,969,865
負債及び純資産の部合計	5,998,066	5,915,483	5,675,069	5,480,044	12,888,863

注：令和４年度までは学校法人長野家政学園の貸借対照表を記載。

(6) 中・長期計画の策定

令和６年４月開設を目指し、私立小学校(２校)、私立中等教育学校及び短期大学の学科新設などの設置認可申請に伴い、法人全体の経営の安定を図るため、理事会として令和５年度から令和１１年度までの中・長期計画を策定した。今後、その進捗状況を毎年検証し中・長期計画を見直すこととした。